

## 関西弁における否定形の整理

# The Systematization of the Negative Suffix in the Kansai Dialect of Japanese

ケビン ヘファナン

Kevin Heffernan

This research is motivated by the claim that the Japanese spoken by teenagers and young adults has become chaotic (Jinnouchi 2007). In order to test this claim, the two-way distinction between realis and irrealis (Niwa 2005) in the negative suffix system of the Kansai dialect of Japanese was investigated. I hypothesized that if the spoken Japanese of the younger generations is indeed becoming more chaotic and personalized at the expense of established grammatical rules, then this two-way distinction in the negative system should also be weakening. The results of the investigation confirm that the realis-irrealis system has disappeared. However, it is gone from the negative system of ages of speakers, not just the younger speakers. Furthermore, an orderly and systematic phonological system has replaced it in the Japanese of the youngest generations. This result is contrary to the claim that the Japanese of the youngest speakers is chaotic.

キーワード： 関西弁、言語変化、否定形、客観的、主観的

**Key Words** : Kansai dialect, language change, negative suffix, objective, subjective

### I. はじめに

#### I-1. 哀悼の言葉

2012年の秋学期の初め、総合政策学部の教員は陣内正敬教授の訃報で大きな衝撃を受けました。陣内先生の逝去が突然すぎて、どなたも気持ちの整理ができなかったのです。2011年の夏ごろに陣内先生と色々な社会言語学の話について議論しました。その中の一つは「若者の方言の乱れ」です。あの会話が本稿に述べる研究のきっかけになりました。しかし、研究の最中に陣内先生が入院されてしまいました。研究の結果を伝えることが出来なくて極めて残念に感じます。筆者は心より陣内先生のご冥福をお祈りいたします。

#### I-2. 本稿の概要

本稿の目標は、陣内(2007)による「若者言葉の乱れ」という仮説を裏付けることである。そのため、関西弁における動詞否定形に着目した。関西弁の否定形はパリエーションに富んでいる上に、文法的な使い分けがある。それには、西日本の方言における動詞否定形は話し手の視点も含まれる(丹羽、2005)。もし若者が話す関西弁が乱れていたら、否定形の「視点性」が無くなりつつあり、その代わりに文法ルールがないアイデンティティを強調する新しい否定形体系が広がっていることと推論できる。

若者言葉の乱れを調べるため、関西弁コーパス(ヘファナン、2012)を利用した。このコーパス

は、関西弁のネイティブスピーカーの自然な砕けた会話から成立している。高校生から高齢者までの男女45人を対象に、それぞれの話し手のインタビューから「ん」「ない」「へん」「ひん」など否定形のトークンを2,148例抽出して分析した。

これにより、若者は否定形を「客観性」によって使い分けしていないことが明らかになった。ただし、若者だけではなく、どの世代においても、結果は変わらなかった。要するに、現代の関西弁には、「客観性」による使い分けが見られない。しかし、関西弁における否定形は別の基準で使い分けされていることがデータ分析によって分かった。以下に説明するように、否定形は、動詞句との母音調和を起こすように選ばれる。さらに前述した「若者言葉の乱れ」仮説に関わっている世代間のパターンを発見した。世代が若ければ若いほど、母音調和が増加し、最も若い年齢グループである「学生」の発話した否定形が約9割である。従って、仮説と反対に、若者が話す関西弁の否定形体系は乱れているどころか、他の世代より整理されている。

## Ⅱ. 若者に広がる言葉の乱れ

### Ⅱ-1. 言語変化を駆動する言語現象:

#### 「アイデンティティ」

共通語か方言かに関わらず若者の間に広がる言葉の乱れがよく指摘される。例えば、朝日新聞の会員に向けて行われた、「日本語は乱れていると思うか」という質問調査に対して回答者は8割以上が乱れていると答えたという結果もある(朝日新聞、2005)。陣内(2007)は、この「若者言葉の乱れ」という現象が起きた理由について次のように説明した。言語変化を駆動する言語学的な要因は何種類かあって、その一つは「アイデンティティ」である<sup>1</sup>。それに対して、言語変化を抑えている

のが「規範」である。言葉の乱れとの関係を述べる前に、「アイデンティティ」と「規範」、それぞれを順に追って説明する。

アイデンティティとは、他人と違う「自分らしさ」を認識する本能のことである。この自己認識は、そもそも生物が生きていくための根本的な作用である。その本能的な面以外に、意識的な面もある。人間のアイデンティティはその人の生まれつきの特徴だけではなく、その人の人生を経て形成するものである。従って、アイデンティティは本来の特徴(人類、性など)と社会的な特徴(グループの所属、教育レベルなど)から成立する。このアイデンティティを表すのは、ファッション、態度、価値観、言葉遣いなどである。例えば、若者のアイデンティティなら若者言葉などで現れる。陣内(2007:44頁)は、若者のアイデンティティを表す言葉遣いの例として、(1)のような「ほかし表現」を挙げた。このような革新的な表現は中高年の世代に使われないため、「若者」というグループに所属するアイデンティティを表す。

(1) 消しゴムとか、借りたりしていい?

僕的には大丈夫だけど。

規範とは、共通語か方言かに関わらず、従来の言葉遣いであって、大人社会で使われている「正しい」言葉である。大人社会に入ってくる子供は大人の言葉遣いを元にして世代語を形成するため、(1)に挙げたアイデンティティを表す表現が抑えられる。陣内によると、若者の間では、アイデンティティと規範のバランスが崩れていて、若者は規範よりもアイデンティティを重視しつつある。なぜなら日本人の価値観が激しく変わりつつあるからである。若者の言葉遣いの基礎にある価値観は、日本の社会に起きている変化を映すものであろうと、以下のように説明している。

「よく話題に上るものとして、敬語の乱れ、女性語の男性語化、新語・俗語・流行語の氾濫など

1 陣内は、アイデンティティの他に「ドリフト」という言語変化現象も詳しく説明した。スペースを節約するため、「ドリフト」の説明は省いた。陣内(2007 p.38-40)を参照されたい。

がある。いずれも若者世代のことは遣いに向けられたものが中心である。しかしながらこれらは、社会の変化や社会通念、生き方の変化などから出て来ている、きわめて社会的なものである。上下関係意識や親疎関係意識の変化、女性の生き方や男女平等思想の浸透、あるいはレジャー時代・消費時代の中での遊び心などが背景としてある。またある意味で抑圧されていたものの顕在化という側面もある。そして、これらを貫く基盤要因として、「集団」や「秩序」尊重の儒教文化から「個人」や「自己実現」を重視するアメリカ型文化への傾斜があるのである。」(陣内、2007:49頁)

日本の社会が変わっていくにつれて、日本人の価値観も変わっていく。陣内によると、若者は昔の社会的なルールを守る気持ちがなくなっている。従って、若者は共通語と方言の伝統的な用法に拘らず、どんどん新しい、自分なりの用法を革新する。年配の日本語スピーカーの立場から言い換えれば、若者が使う日本語が乱れているように見えるであろう。

## II-2. 研究の目標

この「乱れ」は日本語の言語構成の中で、どこまで進んでいるであろうか。語彙のレベルで言えば、現代の若者に限らず、大昔から変わって来ている。例えば、昔の「写真機」は現代の「カメラ」である。語彙は変わるものなのである。語彙のレベルはもちろんあるが、文法のレベルはどうであろうか。このいわゆる「乱れ」は文法のレベルでも顕現するであろうか。

本稿の目標は、文法レベルの「乱れ」を究明することである。そのため、関西弁における否定形に着目した。その理由として、関西弁の否定形のバ

リエーションの豊富さが挙げられる。共通語では「ない」の1種類で動詞の否定を表すのに対して、関西弁では「ない」に加え、「ん」「へん」「ひん」の否定形も使われている。動詞の否定形として、例えば「出来る」なら、「出来ん」「出来ない」「出来へん」「出来ひん」が見られる。実際の会話に出現した例を(2)に挙げる。

- (2) わたし出られへんやないの。[KSJ/045/F/8]<sup>2</sup>  
 いや、ほんまそうやで。家族大事にできん人間、仕事できひんで。[KSJ/026/M/5]  
 その地域、まあ今は青年団ってあれへんけどな、昔はあったんや。[KSJ/028/M/9]  
 何にもわからないまま、うん、始めたから。  
 [KSJ/020/F/5]

しかし、豊富なバリエーションといえども、否定形の使用は任意ではない。先行研究(丹羽、2005)によると、西日本(関西も含む)の方言における否定形は2種類に大きく分けられる。一つ目は、主観的否定であって、話し手の心情や、事実に対する自分の判断で発言する時に用いる。二つ目は、客観的否定であって、社会的な常識や自分で変えられない事実を表現する時に用いる。二つの否定形を3節に詳しく紹介する。話し手の視点による否定形の区別は、本稿の研究が検証する「乱れ」仮説に重要な役割を果たす。手短に述べると、もし若者の関西弁が仮説通りに乱れたら、二つの否定形の区別がなくなりつつあるであろう。

加えて関西弁に関するもう一つの韻律的な言語現象を調べる。それは否定形と動詞句の動詞幹との間の母音調和である。先行研究(上野、2003;真田、2005)によると、関西弁における言葉のバリエーションの中に、五段活用動詞の「へん」否定形は、二つの種類がある。一つは、動詞幹そのまま

2 発話例は関西コーパス(ヘファナン2012)から抜粋したものである。例の後ろに来る括弧の中の数字とローマ字は以下の情報を表す。

コーパス名

話し手番号

性別：F 女性；M 男性

年齢グループ：2：高校生；3：大学生；4：24歳～29歳；5：30歳～39歳；6：40歳～49歳；7：50歳～59歳；8：60歳～69歳；9：70歳～79歳

に「へん」を付ける。例えば、共通語の「行かない」なら、「行かへん」である。もう一つは、動詞幹の最後に来る母音が、「へん」形の「え」母音と調和して「え」に変わる。つまり、共通語の「行かない」なら、「行けへん」である。ちなみにこの「行けへん」の意味は、「行くことが出来ない」という可能否定ではなく、「行かない」ということである。この「行けへん」にあたる可能否定形は「行かれへん」である。母音調和の現象は、伝統的な関西弁の特徴の一つであるが、データに見られるバリエーションは、母音調和によるものであることが、この調査で明らかになった。

次の3節では、関西弁における動詞否定形の種類と使い分けを紹介する。そして、「乱れ」仮説を洗練する。第4節では、データ収集手法と分析を、第5節では、調査の結果を述べる。

### Ⅲ. 関西弁における否定形について

#### Ⅲ-1. 関西弁の否定形

関西弁の否定形には、主に「ん」「ない」「ひん」「へん」の4種類がよく使用されている。動詞によって否定形が偏って使用される場合もある。例えば、「知る」と言う動詞の否定形なら、「知らん」の形がよく使用されるが、「知らへん」と言う形はめったに聞かない。これに対して、どの否定形でも使用される動詞もある。例えば、「出来る」なら、「できん」「できない」「できへん」「できひん」のいずれでもよく聞く。

しかし、否定形の選択には法則性がある。先行研究(丹羽、2005)によると、関西弁の否定形は特有のモード(mode、又はmood)を表す。モードとは、話し手の態度を表す言語体系であり、どの言語にもあると言える。しかし、言語によってモード体系が表す情報が変わってくる。その中に、発話の真実性や可能性、話し手との関連性や話し手にとっての義務性などがある。標準語なら、「だ

ろう」「多分」「かもしれない」「べき」などを付加することによってモードを表す。

表わされる情報だけではなく、モードの範疇、範疇の数、表し方も言語によって変わる。関西弁のモード体系は部分的に動詞活用で表される。動詞の活用でモードを表す言語は珍しくない。例を挙げると、北米インディアンの言語によく見られる(Mithun, 2001)。

関西弁の否定形で表わされるモード体系は範疇が二つある。二つの範疇に限ると、言語のモード体系における最も総合的な区別は「realis」「irrealis」である(Payne, 1997)。Payneによると、「A prototypical realis mode strongly asserts that a specific event or state has actually happened, or actually holds true. A prototypical irrealis mode... makes no claims with respect to the actuality of the event or the situation described.」(Payne, 1997:244頁)

Realisとirrealisは連続体関係を持つ。Irrealisの方には、仮定、可能、願望、義務などを含む断言がある。Payne(1997, 246頁)はirrealisの例として(3)の例文を挙げる。この例文は発話の内容の現実性に関して何も主張しない。以下に説明するように、関西弁の否定形が表すモードは、この「realis」「irrealis」の区別とある程度似ている。

(3) I wish I had a million dollars.

I am able to earn a million dollars.

I have to earn a million dollars.

#### Ⅲ-2. 関西弁の否定形が表すモード

前述したように、丹羽(2005)は、西日本の方言における否定形が表わすモードを「主観的否定形」と「客観的否定形」の2種類に分類する。それぞれの種類を、順に追って説明する。

##### 主観的否定

主観的否定とは、話し手の裁量による否定であり、話し手の判断が及ばない構文で使用すること

が出来ない。話し手は、自分の予想が外れた、又は自分の判断ではそうではない、と主張する。実際の発話の例を(4)に挙げる。(4 i)の発話は話し手が努力のレベルを判断したものである。これは明白に話し手の裁量である。(4 ii)の発話は話し手が容易に気付かないと判断したものである。この断言の内容、つまり容易か否かも話し手の裁量による。二つとも話し手の気持ちを込めた否定表現である。

(4) i. そんなに一生懸命はせえへんやん?

[KSJ/025/F/6]

ii. なかなか目行き届かへんやんか。

[KSJ/031/F/4]

#### 客観的否定

客観的否定形とは、社会的事実や自分では変えられない事実を表す断言で用いる。話し手が自分の心情と関係なく、客観的に発話の内容を伝える。実際の発話の例を(5)に挙げる。(5 i)の発話では内容、つまり先生は男子しかいないという事実は話し手がどう思っても変えられない事実である。(5 i)と同じように(5 ii)の発話も話し手の感想と関わらず、就職活動の状態を伝えるだけである。

(5) i. 全員男の先生やって、だから男しかおらんねん。[KSJ/004/M/3]

ii. 就職が決まらんから、だから一年留年したんだよ。[KSJ/013/M/9]

前の節で説明した「realis」「irrealis」と比べよう。客観的否定形は、一定の出来事あるいは状態が実際に起きた、又は現実であるということをはっきり断言する。これは典型的な「realis」文と同じである。しかし、主観的否定形は、典型的な「irrealis」と少々相違するところがある。「irrealis」の表現、例えば(3)に挙げる例文は、話し手の裁量を込める。従って、「irrealis」の表現は主観的である。しかし、逆は必ずしも真ではない。つまり、主観的な表現はかならずしも「irrealis」では

ない。例えば、(6)に挙げる現実性に関する確率的な表現は、「realis」の部分、つまり、一定の状態(彼氏になる男子はいない)が現実であるということ伝えること、を含みながら、「irrealis」の部分、つまり、断言の現実の可能性に関する話し手の判断ということ、も含む。以下、ややこしい分析判断を避けるため、「主観的否定」と言った場合は、必ず「主観的」な「irrealis」表現を示す。(6)のような、同時に「realis」の部分も「irrealis」の部分もある表現は、含まない。

(6) もう恋したい。でもこう今知っている中に、彼氏に昇格する人は、まあ、いないじゃない。[KSJ/001/F/3]

#### III-3. 関西否定形による研究仮説の洗練

本稿の目標は、若者の方言規範が乱れたという仮説を裏付けることである。そのため、前の節に説明した否定形が表すモードに着目して研究を行う。このモードによる否定形の区別は共通語にないので、方言の状態を調べることに意味がある。もし仮説通りに若者が規範よりアイデンティティを重視しているなら、以下の二点が確認出来ると予測する。

- ① 年配の話者の関西弁における否定形は、「へん」形、又は「ひん」形が顕著に主観的な表現で使用され、他方「ん」形は顕著に客観的な表現で使用されている。つまり、モードによる否定形区別という規範を保守している。
- ② 若者の話者の関西弁における否定形は、「へん」形、「ひん」形、「ん」形がいずれも万遍なく主観的な表現にも、客観的な表現にも使用されている。つまり、モードによる否定形区別という規範を無視し、否定形の革新的な使用方法を発想しつつある。

次の節ではこの仮説を検証する研究手法を述べる。



#### IV. 研究方法

本稿の研究は、インタビューを通じたデータを収集し、データに含まれる否定形の使用頻度を分析した。インタビューの手法は次節、そしてデータの分析は4.2で説明する。

##### IV-1. データ収集

データは関西弁コーパスから収集した。ここでは関西弁コーパスを手短かに紹介する。詳細な紹介は、ヘファナン(2012)を参照されたい。関西弁コーパスを作成するため、Tagliamonte(2006)や、小林・篠崎(2007)の研究手法に従い、社会言語学の一般的なインタビュー調査を行った。インタビュアーは関西学院大学総合政策学部の学生であり、インタビュー対象者は関西圏在住のインタビュアーの家族の一員や知り合いで、インタビュアーと親密な関係を持つ人である。約1時間のインタビューで、自由な会話を録音することで自然な関西弁のデータを収集することができた。その為、話の内容は仕事場での出来事や社会、恋愛の話など多岐に渡る。関西コーパスが元になる話し手は、大阪都市圏出身者を始め、関西地方の色々なところの出身の人、関西地方以外で育った人も含む。しかし、本稿の研究目標は、関西弁における言語変化を調べることであるため、話し手は大阪都市圏に限った。この条件を満たす、様々な年齢に渡る45人を関西コーパスの話し手プールから選択して分析を行った。話し手の年齢グループと性別による分布は表1に示す<sup>3</sup>。幅広い年齢層のデータを得たことによって、若者と高齢者を比較することができる。

	高校生	大学生	若い 社会人	中高年	高齢者	総計
女性	3	5	5	6	5	24
男性	2	5	5	4	5	21

表1：話し手の年齢グループと性別による分布

##### IV-2. データ分析

それぞれのインタビューにつき、繫辞動詞、形容詞、形容動詞を除く、50個を目安にして動詞の否定形を抜粋した。45人の話し手の中で、20人から得たデータは50個に及ばなかった。最も少ない話者が35個で、平均が47.8個(合計2,196個)である。抜粋した否定形の総合的な分布は、表2に挙げる。「他」のカテゴリーに「ません」と「ず」が含まれている。以下の分析では「他」のトークンを外して行った。

トークン	データの個数(割合)
ない	777 (35.3%)
ひん	76 (3.5%)
へん	708 (32.3%)
ん	590 (26.9%)
他	45 (2.0%)
総計	2,196 (100%)

表2：否定形の総合的な分布

それぞれの否定形トークンについて以下の情報を分析した。

動詞：否定形が修飾する動詞

活用種類：トークンを含む動詞句の活用カテゴリー。「五段活用」「下一活用」「上一活用」「サ変活用」「カ変活用」のいずれか。

活用形：トークンを含む動詞句の活用形。「終止形」「連用形」「連体形」「仮定形」のいずれか。活用形の例文は(7)に挙げる。

(7) 終止形：全然連絡来<sup>こ</sup>へんし。[KSJ/002/F/3]

連用形：休もうと思ってたけどそれも休まれ

3 本稿の研究を行った時点で高校生から得たインタビューのデータの書き起こしと訂正が5人分しか完了しなかったため、高校生の人数が他の年齢グループより少ない。

へんく<sup>1</sup>な<sup>2</sup>ったし。[KSJ/033/F/5]

連体形：大学さー知らん子ばかりやん。

[KSJ/004/M/3]

仮定形：ほんで分かんかったら分かんい  
いますから、いうてそれで笑わしてたんやけ  
どな。[KSJ/032/M/8]

時制：動詞句の時制。「過去」「非過去」のい  
ずれか。活用形の例文は(8)に挙げる。

- (8) 過去：ほんでうちお兄ちゃんは座間にいたん  
やけど、通じひんかってん。[KSJ/008/F/9]

非過去：ほんまそれ。うん、いないね。

[KSJ/001/F/3]

進行：動詞句の進行状態。「進行」「非進行」の  
いずれか。進行の例文は(9)に挙げる。

- (9) 進行：ちょっと子供のころやからよう覚えて  
ないけど。[KSJ/045/F/8]

非進行：あの人は何しとんか知らん。

[KSJ/039/M/5]

視点：話し手の視点。「客観的」「主観的」のい  
ずれか。例文は、すでに(4)と(5)に挙げた。

#### IV-3. 見かけ時間分析

幅広い年代に渡った調査の際には「見かけ時間」という手法を使用することが可能である。見かけ時間は、1960年代にWilliam Labovが構築した手法である(Labov, 1996, 1972等を参照)。見かけ時間の手法を使用することで、観測された時代別の言語データから言語変化を推測することができる。この研究手法を手短に説明する。人は思春期までに習得した言語の文法などは時間が経つにつれてどんどん変わらなくなり、つまり言語の構成が固定される。従って、70代の高齢者の文法及びアクセントはその人が子供であった60年以上も前のコミュニティで話されていた言語を反映するということと言える。つまり高齢者の言語使用を見ることによって過去を顧みることができる。この見かけ時間を用いて今回の研究を進めること

で、現代の若者と中高年、高齢者を比べ、世代による相違から言語変化を推測する。

## V. 研究結果

### V-1. 「ある」という動詞の否定形

インタビューで得たデータで、「ある」の否定形は、三つの形があった。それは、「ない」、「ありへん」「あれへん」である。その中で、「ない」が圧倒的に多い。「へん」類の世代による使用率、図1に示す。図1を見ると、「ありへん」「あれへん」の使用率が、年代が若くなるにつれ減少している傾向が分かる。特に女性の話し手は、「へん」形を避ける。面白いことに、高校生の男性グループは、他のグループより「へん」形を多く使用する。沖縄方言のアクセント標準語化を調べる別の調査(Heffernan, 2006)で、似ている現象を観察した。その際には、アメリカの南部で行った研究(Dubois & Horvath, 2000)によって、方言リサイクリングと判断した。手短に説明すると、方言リサイクリングとは、特に若い男性の間に起きる現象である。その若い男性は、地元の文化に所属するアイデンティティを強調するため、高齢者が話す方言に現れる特有な言語特徴を真似て使用する。図1に見られるパターンもそうであろう。そう考えると、これは、若者がアイデンティティを重視する証拠となる。

ちなみに、「ある」の否定形は、圧倒的に「ない」形が多いため、以下に「ある」という動詞を含める動詞句を外して分析を行った。しかし、この結果によって、「ない」という否定形態素は、関西弁の否定体系になくはならぬほど融合したということが分かった。従って、「ある」の動詞句以外の場合、「ない」否定形態素を調査に含めた。

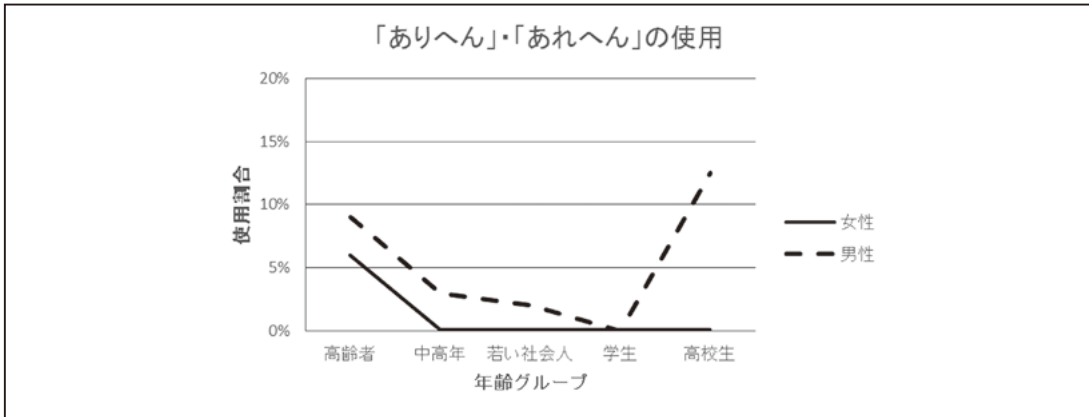


図1：性別と世代による「ある」の否定形「ありへん」・「あれへん」の使用割合

#### V-2. 対応する肯定の言い方がない表現

次に、対応する肯定の言い方がない方言におけるバリエーションを説明する。例文として、(10)を挙げる。この発話に見られる「かも知れへん」に対応する肯定的な言い方、つまり「かも知れる」はない。データの中で、このような否定表現は、合計で225件あった。その中で、(11)に見られるように、135件が「あかん」である。その残りのトークンが「ない」(N=11)、「へん」(N=36)、そして「ん」(N=43)の三つの否定形に分かれた。「あかん」という動詞句は、「～あかへん」「～あかない」等のバリエーションがデータに見られないため、分析から外した。「あかん」以外の対応する肯定表現がない表現を含めた。

(10) だから今でも繋がるよあるんかも知れへんな。[KSJ/030/F/4]

(11) 今は中国とかと対抗せなあかんからね。  
[KSJ/021/M/6]

#### V-3. 動詞活用形による否定形

否定形を動詞活用で分析すると顕著なパターンが出る(表3)。否定形のそれぞれの使用頻度を一番右の列にある総計と比較すると、「連用」はかなり相違するということが分かる。動詞の否定連用形の場合、「ん」が非常に多く使われる。実際の例

文は、(12)に挙げる。それぞれの否定形使用割合は、中高年の話し手が他の世代より「ない」形を好むこと以外、世代と性別に関わらずほぼ同じである。そのため、世代と性別による分析を省いた。連用否定形は、バリエーションがかなり限られているため、以下の分析から外し、連用形以外の活用形に注目した。

	仮定	終止	連体	連用	総計
ない	43%	23%	25%	20%	24%
ひん	0%	5%	5%	1%	5%
へん	16%	49%	34%	8%	44%
ん	41%	22%	35%	71%	27%
総計	100%	100%	100%	100%	100%

表3：動詞活用形によるトークンの使用頻度

(12) 最初全然意味が分からんくて、「こいつら日本語喋ってるのに何言ってるか分からん」みたいなの。[KSJ/012/M/4]

#### V-4. 進行状態による否定形

次に、動詞の進行状態によって、否定形がどう変わるのか説明する。動詞が進行状態の場合、「ない」形と「へん」形しか見られない。その中で、「ない」形が非常に多い(76%)。ここでも又、「ない」の否定形態素が関西弁の否定体系に融合したこと



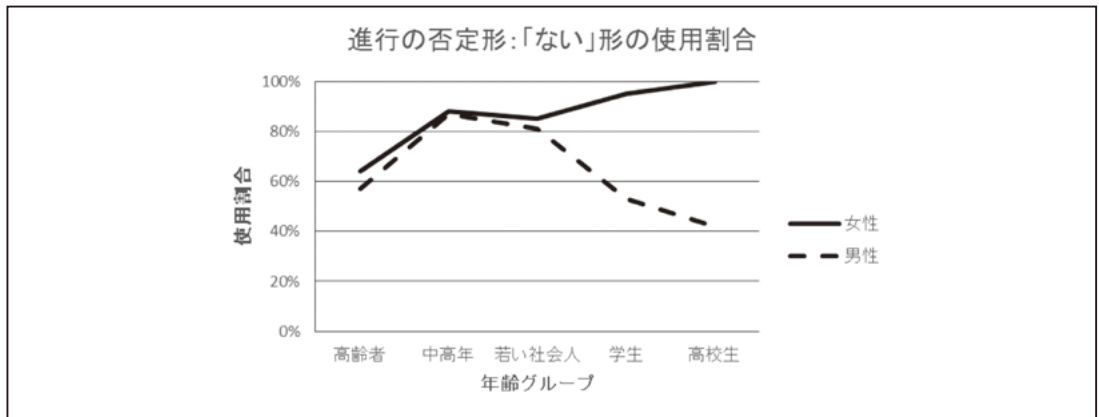


図2：世別による進行の否定形の「ない」形使用割合

が見える。しかし、比率が世代によって変わる(図2)。図2を見ると、若者の間で、否定形が性別によってずいぶん分かれたということが分かる。女子高校生は、「ない」形しか使わない。一方、男子高校生は、6割：4割の比率で「へん」形と「ない」形を使っている。この結果は、前述した方言リサイクリングの結果と一致する。若い男性の間で、地元の方言に対する慕情が増えているためであろう。そして、この慕情を言葉で表している。一方、若い女性の間では、モダンな、かつ威信ある共通語に所属する気持ちが増えている。もしこの結論が正しければ、この結果も若者が伝統方言の文法規範よりアイデンティティを重視する証拠となるであろう。

#### V-5. 視点

前述したように先行研究(丹羽、2005)によると、関西弁の否定形は話し手の視点によって使い分けられる。つまり、「へん」形が「主観的」な発話で、「ん」形が「客観的」な発話で良く使われる。もし3節で紹介した「乱れ」仮説が当て嵌まるなら、この使い分け規範がだんだん崩れているということであろう。つまり、話し手の世代が若くなればなるほど、この区別がなくなる。この仮説

を検証するため、まず、動詞が「ある」(N=411)、「あかん」のトークン(N=137)、動詞句が連用形(N=80)、又は進行形(N=266)のトークンを調査範囲から除外した。その残りの1,305件をできるだけ「主観的」「客観的」の二つの類に分類した<sup>4</sup>。前述したように範疇が曖昧である発話を除いた。分析の結果は、表4に示す。

範疇	トークンの個数(割合)
主観的	649 (49.8%)
客観的	486 (37.2%)
不明	170 (13.0%)
総計	1,305 (100%)

表4：「主観的」、「客観的」、  
或いは「不明」と判断したトークンの個数と割合

もし、関西弁における否定形が話し手の視点によって使い分けられたら、「主観的」と判断した動詞句の否定形態素は、主に「へん」形、「客観的」と判断した動詞句の否定形態素は、主に「ん」形を使用するはずである。これに当て嵌まるトークンの割合を、世代別に分析した。「主観的」と判断した動詞句の否定形態素の世別による割合は図3に示し、「客観的」と判断した動詞句の否定形態素の世別による割合は図4に示す。この二つの図を見る

4 トークンは複数の条件に当て嵌まる場合もあるので、残りの数に除外したトークンの数を足すと、トークンの合計を超える。

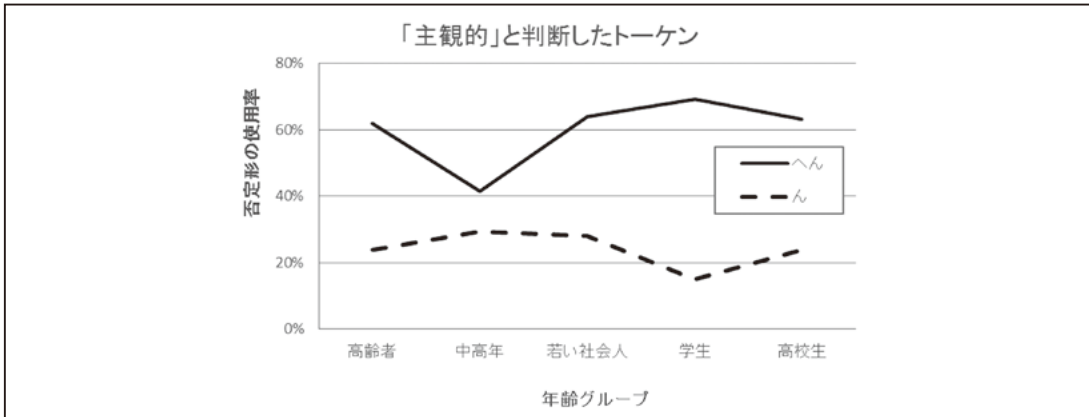


図3：「主観的」と判断した動詞句の否定形態素の世別による割合

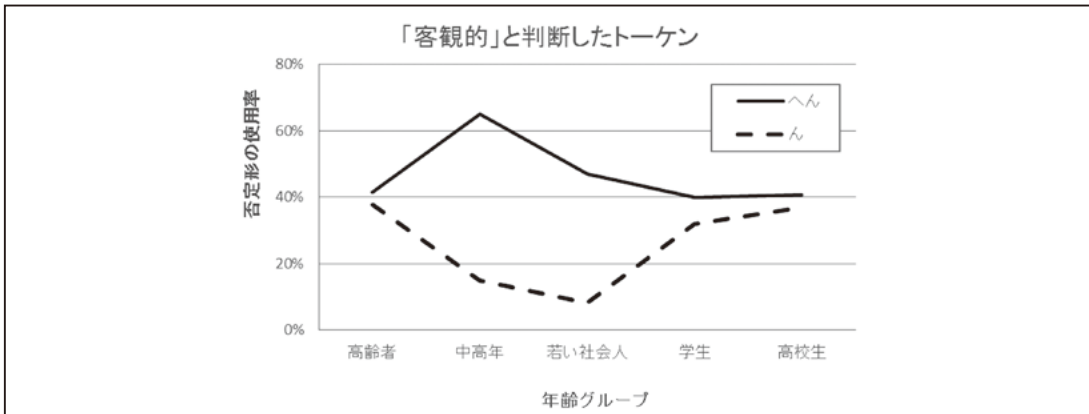


図4：「客観的」と判断した動詞句の否定形態素の世別による割合

と、関西弁における否定形の使い分けは、必ずしも話し手の視点によらない。視点に関わらず、「へん」形は「ん」形より多く使用される。

この研究の仮説にとってさらに重要なことは、どの世代でも大ざっぱに同じな傾向が見られる。言い換えると、関西弁の保守的な否定形体系を使用していないのは、若者だけではなく、3.3に述べた仮説と違って年配の話し手も使用していない。従って、調査の結果は、「若者言葉の乱れ」仮説を裏付けることはできない。

しかしながら、この結果に対して疑問点が残る。それは、「関西弁における否定形が何によって使い分けられているか」ということである。こ

の疑問を次の節で回答する。

V-6. 母音調和

最後に母音調和の面からデータを分析する。母音調和とは、否定形の母音と、その直前にくる動詞句の母音が同じであることである。例文として(13)を挙げる。(13 i)の例文では、否定形態素「へん」の母音と、その直前にくる動詞句の「け」の母音が、同じ「え」である。(13 ii)の例文には、否定形態素「ひん」の母音と、その直前にくる動詞句の「い」の母音が、同じ「い」である。

(13) i. 自分の英語もつたないから、聞けへんかったけど。[KSJ/003/F/3]

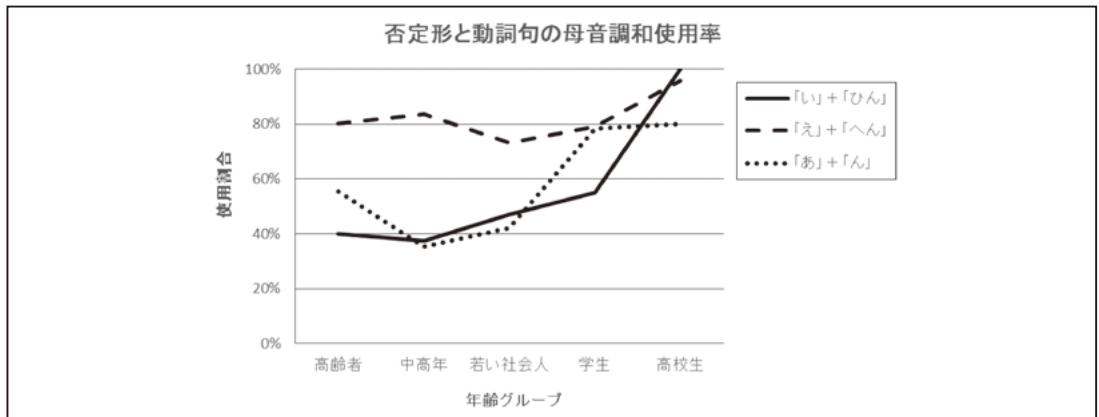


図5: 世代による否定形と動詞句の母音調和割合

## ii. 勉強しかしいひんよ。[KSJ/034/M/2]

視点の分析と同じように、動詞が「ある」(N=411)、「あかん」のトークン(N=137)、動詞句が連用形(N=80)、又は進行形(N=266)のトークンを例外として研究範囲から外した。それから、カ変活用の「来る」動詞のトークン数が少ない(N=19)ため、カ変活用動詞も分析から除外した。その残りの1,250件<sup>5</sup>を分析した。母音調和をさらに理解するため、まず否定形とその直前にくる母音の組み合わせ使用率(表5)を見よう。表5には顕著な傾向が見られる。それは、「ひん」と「い」、「へん」と「え」、「ん」と「あ」という組み合わせが圧倒的に多いということである。

	あ	い	え
ない	61 (10.8%)	37 (24.8%)	56 (10.4%)
ひん	0 (0%)	76 (51.0%)	0 (0%)
へん	187 (33.2%)	23 (15.4%)	417 (77.5%)
ん	315 (56.0%)	13 (8.7%)	65 (12.1%)

表5: 否定形とその直前にくる母音の組み合わせ使用率

明らかに(13)の例文に挙げた「え」と「い」の「母音調和」は、自然な発話によく見られる。この二つ以外、「ん」と「あ」の組み合わせが興味深い。な

ぜなら、「ん」の否定形態素には母音がないため、この組み合わせは「母音調和」ではない。しかし、もし、関西弁の話し手が使用する否定形体系の元になる駆動力が「母音調和」であれば、自然に「ん」と「あ」の組み合わせが残る。この解釈を調べるため、それぞれの1,260トークンを母音調和の面から分析した。「ひん」の前に「い」、「へん」の前に「え」、そして「ん」の前に「あ」の母音が起きたら、そのトークンを「母音調和あり」と判断した。否定形と動詞句の母音調和和使用率を世代別で図5に示す。図5を見ると、顕著な傾向があることが分かる。年齢グループが若ければ若いほど、母音調和率が増加する。高校生の年齢グループになると、使用率が100%に近づく。つまり、若い関西弁の話し手が母音調和によって否定形を使い分けしているということである。

## VI. まとめ

本稿の目標は、陣内(2007)による「若者言葉の乱れ」という仮説を裏付けることである。そのため、関西方言における動詞否定形が表す「視点性」を調べた。もし若者の関西弁が乱れていたなら、否定形の「視点性」が無くなりつつあるという仮説を

立てたが、仮説を裏付けることが出来なかった。どの年齢グループでも、視点性がなかった。しかし、若い話し手の方言に新しい否定形体系が見られた。それは、母音調和である。大勢の話し手が否定形の直前に来る動詞句の母音と合うように、否定形を使い分けしている。その上、話し手が若ければ若いほど、母音調和率が増加する。高校生の年齢グループは100%に近い。

この研究で理解した新しい関西弁の否定体系は以下の四点にまとめられる。

1. 「ある」の否定形は「ない」である。
2. 動詞句の否定連用形は「んくて」である。
3. 動詞句の否定否定形は「ない」である。しかし、若い男性は「へん」もよく使用する。
4. 動詞句の終止否定形は母音調和によって表6のように使い分けされる。

否定形の直前に来る母音	否定形
い	ひん
え	へん
あ	ん

表6：関西弁における否定形の母音調和体系

若い話し手が発話したトークンは、この四点にほとんど当てはまる。他方、年配の話者が使用する否定形は、何によって使い分けをしているのか、今の時点でまだ不明である。おそらく年配の否定形体系が共通語の圧力で崩れだして、方言の体系に空白を開けたのではないだろうか。しかし、自然言語は言語習得過程を通じて新しい体系を次々生み出す。その崩れた否定形体系が開けた空白を埋める必要性があった。従って、若い世代が手元にある証拠に基づいて新しい否定形体系を生み出した。その新しい体系を構成する最も良い証拠がたまたま否定形の直前に来る母音であったということである。従って、母音調和によって使い分けする、かなり簡単に秩序性がある否定形体系が生まれた。結局、立てた仮説と反対に若者が

話す関西弁の否定形体系は乱れているどころか、他の世代より「整理」されている。

#### 参考文献

- Dubois, Sylvie and Barbara Horvath. (2000) When the music changes, you change too: Gender and language change in Cajun English. *Language Variation and Change*, 11, 287-313.
- Heffernan, Kevin. (2006) Prosodic levelling during language shift: Okinawan approximations of Japanese pitch-accent. *Journal of Sociolinguistics*, 10, 641-666
- Labov, William. (1966/1996) *The Social Stratification of English in New York City*. 2nd ed. Cambridge: Cambridge University Press.
- Labov, William. (1972) *Sociolinguistic Patterns*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Mithun, Marianne. (2001). *The Languages of North America*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Payne, Thomas E. (1997). *Describing Morphosyntax*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Tagliamonte, Sali. (2006). *Analysing Sociolinguistic Variation*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 朝日新聞 (2005.7.11) 夕刊「日本語の乱れを感じますか」
- 上野誠治 (2003) 「関西方言における「へん」否定について」『北海学園大学人文論集 23・24号』北海学園大学人文学会
- 小林隆・篠崎晃一編 (2007) 『ガイドブック方言調査』ひつじ書房
- 陣内正敬 (2007) 「若者世代の方言志向」小林隆 (編) 『方言の機能』岩波書店
- 真田信治 (2005) 「方言の盛衰」陣内正敬・友定賢治 (編) 『関西方言の広がりコミュニケーションの行方』和泉書院
- 丹羽一彌 (2005) 「否定表現と判断」『日本語動詞述語の構造』笠間書院
- ヘファナン、ケビン (2012) 「関西弁コーパスの紹介」『総合政策研究』41号